

## 〈言葉マグネット〉で 語彙を増やそう

### 語彙力がないとどうにもならない？

ここまでのトレーニングをやってきてどうでしょうか。脳は、ずいぶん活性化してきたでしょうか。ひょっとすると今、こんなことを感じている人はいないでしょうか？

「いえいえ先生、私、語彙力がないんです！ 語彙力がなければ、言葉を思い出すことも、文章でまとめることもできません……。まずは、語彙を増やす方法を教えてくださいませんか？」

語彙力がなければ、言葉を思い出すことも、それをまとめることもできません。つまり、これまで紹介したトレーニングをする前の段階というわけです。今回は、そんな方に向けて、「使える語彙を増やす方法」をお伝えしようと思います。

### 視点4 使える語彙を増やす

さて、質問です。みなさんは、まわりの人に比べて語彙が少ないと悩んでいませんか？ たとえば、以下の症状に心当たりはないでしょうか。

- 症状1 語彙力がなく、いつも同じ言葉ばかり使ってしまう。
- 症状2 本を読まないため、語彙力がない。
- 症状3 語彙の増やし方がわからず、途方に暮れている。

私はこれまで、小学生から政治家まで、たくさんの人に「話し方・書き方」について教えてきました。実は、「語彙力がない」ということは世代を問わず、誰もが口にする悩みです。そして、大半の人が、「それはあまり本を読んでこなかったから」ということに原因を結論づけてしまいます。

はたして、そうでしょうか？ 本をたくさん読んでいる人でも、語彙力がない人はたくさんいます。口下手な人もいます。本を読んだからといって語彙力が身につくわけではないのです。

### 谷川俊太郎さんと〈言葉マグネット〉

では、どうすれば語彙力が身につくのでしょうか？ 語彙を増やそうと思ってやみくもに本を買う、わからない言葉が出てきたらスマホや辞書で定義を調べて覚える——こんなことを繰り返しても、語彙力はつきません。というのは、言葉というものは、自分の経験や記憶、興味関心とひもづいたときに初めて、その人にとって意味あるものになるからです。

たとえば、「たまねぎ」という単語を辞書で引き、「ネギ属の多年草」などと覚えたとしても、実際に使う場面はほとんどないわけです。自分の感性や興味関心から言葉を集め、使用する場面や文脈とひもづけて覚えるからこそ、実生活で役立つ〈使える語彙〉として定着します。

そこで、語彙を増やすために私が考えた方法が、〈言葉マグネット〉というものです。マグネットとは磁石のことです。S極とN極に砂鉄を近づけると、さっと集まってくるあの磁石です。マグネットのように、一つの言葉を中心に、知っている知識や連想される言葉をかき集める。これが、〈言葉マグネット〉です。

谷川俊太郎さんの「生きる」という有名な詩があります。

生きているということ  
いま生きているということ  
それはのどがかわくということ  
木もれ陽がまぶしいということ  
<中略>  
海はとどろくということ  
かたつむりははうということ  
人は愛するということ  
あなたの手のぬくみ  
いのちということ


（「生きる」谷川俊太郎）

実は、この詩も〈言葉マグネット〉で説明できるのです。一体どういうことが、具体的に見ていきましょう。

## 05 形容詞に逃げない

## 意見や感想をひと言で終わらせていませんか？

みなさんはここまで、さまざまな言葉のトレーニングを積んできました。言葉というものに意識が向く過程で、自分が特定の語句やフレーズを使いまわしている、そうした事実気づいた人はいないでしょうか？ たとえば、人に何か感想を求められたとき、「やばい」「すごい」のひと言ですませていますか？ Chapter 1最後の講義では、いつもひと言で意見や感想を終えてしまう——そんな人たちに向けて「言葉を積極的に活用していく」というテーマでお話を進めていきます。

 視点5 形容詞をやめると言葉が積極的になる

さて、質問です。「うまい」「かわいい」「きもい」…… 何かに反応するとき、ひと言だけ意見や感想を述べて、終わりにしていませんか？ ほかに以下の症状に心当たりはないでしょうか？

**症状1** 人の話を、「なんか長いな」といったひと言ですませしてしまう。

**症状2** 「やばい」といった同世代にしか通じない言葉をよく使う。

実は、この「やばい」「うまい」「かわいい」「きもい」「長い」といった言葉は、品詞でいうとすべて形容詞です。言ってみれば、何かを形容する言葉でしかないわけです。何か驚くことがあったら「やばい」、おいしいものを食べたら「うまい」、好印象な人を見かけたら「かわいい」、嫌いな人が近づいたら「きもい」、上司の話聞いたときに「長い」……これらは起きた出来事に形容詞を使って、反応しているだけです。

つまり、形容詞というのは、ものごとに対して受け身な反応をするときによく使われる言葉なのです。前向きに何かを表現しよう、積極的に反応しようとしている言葉ではないのです。

いわば、起きた状況に対して、ささやかな評価をしているだけにすぎません。こういう言葉を普段から使いまわしていると、会議などのビジネスの場で、しっかりと自分の意見や感想を言えなくなってしまう。

## トレーニング 3フレーズで感想・意見を言うクセをつけよう

私は何も、「やばい」「きもい」といった形容詞を一切使うなど言っているわけではありません。使ってもいいんです。使ってもいいけれども、少し変化を加えるだけで劇的に「この人は話すのがうまいな」と思われます。このことを、みなさんにぜひ知ってほしいのです。

では、変化を加えるとはどういうことでしょうか？ ラーメンを例に考えてみましょう。



ラーメンを食べて、「うまい」と思ったあとに、そこで終わらせず、あと二つ頑張ってフレーズをつけ足してください。食べたときに「うまい」と思った瞬間を思い出し、そのあとに何を加えればよいのかをあと二つ考える。これをやってみてください。

## 〈やってみよう！〉


うまい、( )、( )

なんでもいいんです。「うまい、熱い、スープがおいしい」、そんなことでかまいません。一つで終わりにしないということがとにかく大事です。これは若い人に多いのですが、「ボソッとしゃべり」と言うんです。「きもい」「やばい」と、ひと言で終わりにしてしまうことが多いのですが、それで終わりにしないで、脳を働かせるわけです。いつも「やばい」で終わるところを、あと二つ言葉を足す——そうすると、脳は一生懸命に次の言葉を探し出します。これが、3フレーズで感想・意見を言う〈3フレーズ法〉という方法です。

ウェブ特有の  
文章の書き方

## 紙の文章とウェブの文章は違う

〈文章力〉をテーマにした5回目の講義です。最後に取り上げるのは、ウェブ特有の文章の書き方についてです。

 視点5 ウェブの文章の書き方を学ぶ

さて、ここで質問です。みなさんは、ウェブにおける文章の書き方を知っていますか？ おそらく、以下の症状のような人が多いのではないのでしょうか？

- ① 症状1 紙でもウェブでも、同じような文章の書き方をしている。
- ② 症状2 SNSやブログに文章を書いても反応がない。
- ③ 症状3 メールやチャットでのやりとりが苦手だ。

現在、コミュニケーションの中心はウェブにどんどんシフトしてきています。紙の書類や手紙、ファックスを使う機会が減り、かわりにパソコンやスマートフォン、タブレットで文章を読むことが増えました。当然のことながら、メディアが違えば、そこで求められる文章の形式や特性も変わってきます。そうした違いに気づかず、紙とウェブの区別なく混同した文章を書いていると、「文章をうまく書けない人」という悪い印象を相手にもたれてしまいます。

これを解決するためには、ネットの特性をまず知る必要があります。とりわけ、スマートフォン（以降スマホ）の特性をよく理解しておくことが重要です。というのも、メール、チャット、ビジネス文書などを含め、これからはスマホで文章を読むことが多くなるからです。では、スマホに合った文章とはどのようなものなのでしょうか？

私が考えるポイントとしては、以下の三つがあります。

## 〈スマホに合った文章のポイント〉

- 1) Fリーディング
- 2) 風通しのよい文章
- 3) 冒頭と見出し

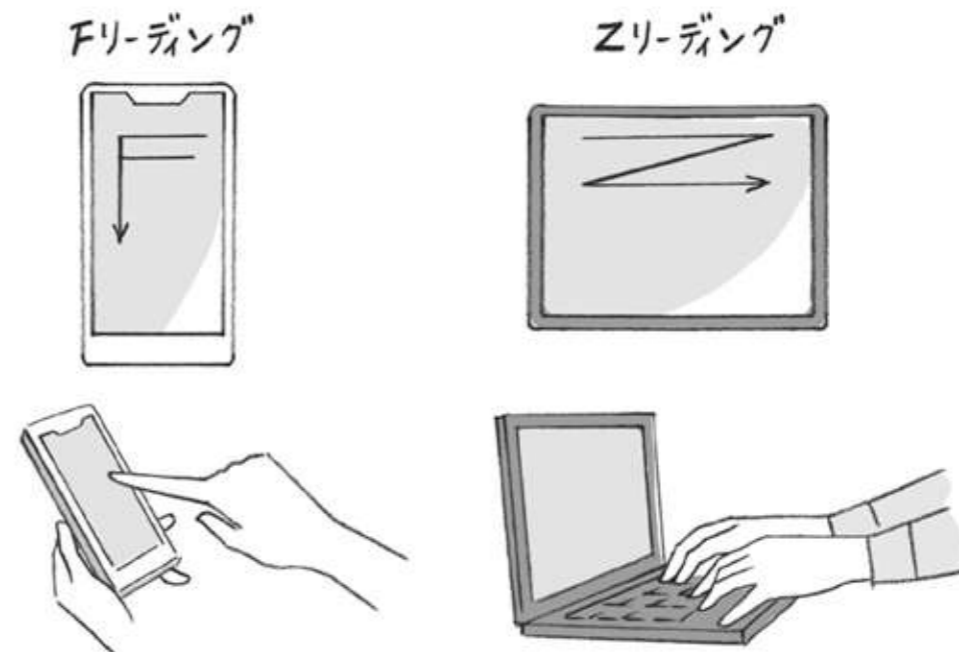
## スマホ画面を読むときはFリーディング

スマホを使うときは、その特性として文章を指でスクロールして読んでいきます。面白くないところがあれば、端まで読まず、どんどん下の行に目線を移し、読み飛ばしていきます。

すると、アルファベットのFのような目線の動きになるわけです。これを私は、Fリーディングと呼んでいます。

一方で、パソコンや紙の場合は違います。ヨコに長さがあります。そのため、アルファベットのZのような目線で文章を読んでいくことになります。

これをZリーディングといいます。Zリーディングでは、ヨコに文章が長くなるので、拾い読みがしづらいついた特徴があります。



スマートフォンで読まれる文章は、Fリーディングです。タテにタテに流れていく文章になります。当然、紙やパソコンの文章とは、その特性に違いが生じます。それは、紙やパソコンの文章とも異なる、スマホの特性に合った文章が存在するという点でもあります。

では、スマホの特性に合った文章とはどのようなものなのでしょうか。ここで、そのポイントを整理しておきましょう。